

平成 25 年度公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム
「未来へ語りつぐ歴史のまち蓮池創生事業」成果発表概要シート

① 本年度における活動内容

- (1) 支援プログラム実施に向けた組織づくり、関係機関のネットワーク化
- ・スタッフ打合せ会議（月 2 回程度実施）
 - ・蓮池町地域連携協議会（9/25、10/9、12/26、1/27 実施）文化教育部会、地域振興部会
 - ・まちづくり講演会の開催（2/10）
- (2) 歴史資源の調査、整備
- ・郷土史編集委員会を設置、町内の史跡・資料の調査と郷土史本刊行の準備（7/12、8/21、9/8、9/20、10/16、11/13、2/13 実施）
 - ・史跡散策マップ作成
 - ・蓮池町の昔を子ども向けに紹介する紙芝居の作成
 - ・シニア世代の地域人材を発掘、登用（ボランティアガイド養成）
- (3) 地域文化の伝承
- ・郷土学講座「蓮池藩の歴史」の開催（9/20 成人対象、49 人）
 - ・古文書講座の開催（7/12、11/22、12/21、1/24 実施、2/21、3/14 実施 参加平均 20 人）
 - ・鼓の胴の松飾り伝承教室と伝統食のふるまい（12/23、100 人目標⇒参加者 125 人）
 - ・ふるさと学級（小学生対象）「芋茶粥をつくろう」（11/20、20 人）、「味噌づくり」（11/29、24 人）、「豆腐づくり」（1/17、25 人）
 - ・子ども伝承文化教室「見鳥のカセドリ」「小松の浮立」等（2/10 芙蓉小 3 年生 23 人）
- (4) 地域資源の観光化
- ・藩政時代の習わしを踏襲した観月会の開催（10/19、500 人目標⇒来場者 524 人）
 - ・鼓の胴の松飾りの商品化（12/23、30 個販売）
 - ・ボランティアガイド養成講座の開催（2/19、2/26、3/5）
 - ・直澄公生誕 400 年祭 [平成 27 年] の開催準備
 - ・まちの駅「売茶翁の駅」の開設（3/9）

② 本年度に得られた事業成果と事業による地域の波及効果について

- (1) 支援プログラム実施に向けた組織づくり、関係機関のネットワーク化
- ・蓮池町地域連携協議会に文化教育部会、地域振興部会を設置。公民館と蓮池町地域連携協議会が連携を図り、町の未来について考えながらのまちづくりの取り組みがスタートした。
 - ・会議や事業を通して、住民の“地域の一員”としてのまちづくりへの参画意識が高まっている。また、世代間の交流が進み住民関係が深まって町内で新たなネットワークが形成されつつある。
- (2) 歴史資源の調査、整備
- ・郷土史本刊行の準備のため町内の歴史資料調査を実施した。次年度予定の散策ウォーキングコースの整備等に向けて、史跡マップづくりに着手した。
 - ・歴史資源の調査や紙芝居の作成等を通じて、地域への関心が深まり郷土愛が高まっている。
 - ・ボランティアガイドの養成に関して、まちの歴史や文化に詳しいシニア世代の人材を発掘、登用を図っている。
- (3) 地域文化の伝承
- ・蓮池町特有のお正月飾り「鼓の胴の松飾り伝承教室」を開催し、目標 100 人を上回る 125 人が参加し、松飾り作成体験や伝統食「芋茶粥」「だご汁」を食し、校区内外に地域文化の伝承や広報ができた。
 - ・町内に残る伝承文化「芋茶粥」「見鳥のカセドリ」「小松の浮立」等を小学生へ体験させ教授することとしている。次世代への継承と郷土愛を育むことへ繋げていきたい。
- (4) 地域資源の観光化
- ・藩政時代の習わしを踏襲した観月会を開催し、昨年度比 100 名以上増加の 524 人が来場した。農産物の販売、月明かりコンサートや芋茶粥の会食、煎茶の野点等を校区外からの来訪者と校区住民とのふれあいの機会を作ること、蓮池町の良さを体感してもらうことができた。

- ・既存の工芸品「鼓の胴の松飾り」を商品化し、30個販売することができた(12/23)。
- ・3/9 まちの駅「売茶翁の駅」の開設し、伝統食「芋茶粥」「鮎んこ食い」62食、農産物加工品228個販売したことにより、新規の参加者や来場者を増やすことができた。

③ 事業の実施に当たっての課題・問題点(当初計画時とのギャップなど)

- (1) 支援プログラム実施に向けた組織づくり、関係機関のネットワーク化
 - ・関係者、協力者のまちづくりの気運は高まってきているが、住民全体の意識の高揚はまだ充分ではない。
 - ・実行組織の体制整備が遅れ、関係行政機関や地域団体との連携はまだ充分に取れておらず、ネットワーク化が進んでいない。
- (2) 歴史資源の調査、整備
 - ・歴史資源の調査、整備については、佐賀県立美術館・博物館、佐賀城本丸歴史館の協力要請はできていないが、昭和女子大学教授と学生の調査協力を得ることができた。
- (3) 地域文化の伝承
 - ・シニア世代や小学生の参加は多く取り込めたが、中間年齢層(20~50代)の参加が少なく次年度への課題である。
- (4) 地域資源の観光化
 - ・藩政時代の町並みに残る店舗や空家が、事業の廃業や持主の事情等により活用が困難になった。歴史的な建造物や街並みの保存、活用が課題である。

④ 本年度の内容を踏まえた次年度以降の計画(自主事業化を図るものについても記載のこと)

- (1) 編集委員会で調査した歴史資料を整理し、藩政時代の郷土史本を刊行する。
- (2) 作成した散策マップをもとに「町内の史跡めぐりウォーキングコース」の設定、案内ガイドを配置し郷土学習や観光資源として活用を図る。
- (3) 公民館施設を利用した「まちの駅」の定期的な開設。農政協議会や商工会の参画を図り地元の農産物の販売や特産のお菓子を販売する。併せて、地域の特性を活かしたイベントや郷土資料の展示などを行う。
- (4) 「鼓の胴の松飾り」等の地元工芸品、農産加工物の商品化し、まちの駅で販売する。
- (5) 蓮池町の歴史文化を知り伝承していくための「郷土学講座」、「伝承文化体験講座」「古文書講座」を開催する。
- (6) 小学生まで対象を拡大した史跡ガイドの養成を図る。
- (7) 蓮池町の食文化を伝える料理講習会の実施。
- (8) 蓮池町の偉人、初代蓮池藩主 鍋島直澄公 生誕400年祭(平成27年度)の企画

⑤ 事業実施アンケート

- (1) 町民アンケートの実施(事業実施後にアンケート) 3/9 実施
 - ・支援プログラム事業を知っているか
知らなかった66.1%、少し知っている15.1%、大体知っている17%、未回答1.9%
 - ・地域活動への関心、意欲は高まったか
高まった62.3%、変わらない28.3%、低くなった3.8%、未回答5.7%
 - ・郷土に対する理解や愛着は高まったか
高まった67.9%、変わらない26.4%、低くなった0%、未回答5.7%
 - ・地域の連帯力は強くなったか
強くなった53.4%、変わらない35.8%、低くなった3.8%、未回答7.5%

平成 25 年度公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム
「未来へ語りつぐ歴史のまち蓮池創生事業」評価票 評価者氏名 ()

事業の達成度 (○でお困みください。評価理由についても御記入をお願いします。)

(1) 支援プログラム実施に向けた組織づくり、関係機関のネットワーク化

- A 十分に達成していると思われる
- B 概ね達成していると思われる
- C やや不十分に感じられる
- D 抜本的な見直しが必要である

理由：

(2) 歴史資源の調査、整備

- A 十分に達成していると思われる
- B 概ね達成していると思われる
- C やや不十分に感じられる
- D 抜本的な見直しが必要である

理由：

(3) 地域文化の伝承

- A 十分に達成していると思われる
- B 概ね達成していると思われる
- C やや不十分に感じられる
- D 抜本的な見直しが必要である

理由：

(4) 地域資源の観光化

- A 十分に達成していると思われる
- B 概ね達成していると思われる
- C やや不十分に感じられる
- D 抜本的な見直しが必要である

理由：

全体を通しての所見 (自由に御記入ください。)